

「令和3年度 学生 FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書」の掲載について

日本大学では、FD 活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく、平成 25 年度より、16 学部 87 学科，短期大学部 4 学科，通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生 FD や本学の教育について理解を深め，気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生 FD CHAmmit (ちゃみっと)」を開催しております。全学規模のイベントとなっており，例年，各学部等から 200 名以上の参加者を得て開催しております。令和 2 年度及び令和 3 年度においては，コロナ禍の影響により，オンライン (Zoom) 開催いたしました。

令和 2 年度の CHAmmit では、「オンライン授業のミライのカタチ」として，オンライン授業の改善・要望等を話し合い，学部への提案書を作成しました。これを踏まえて，効果的な教育改善の実現に繋がるよう，芸術学部において学生との協議の場を設け，「改善報告書」を作成いたしました。

第 9 回目の開催となる令和 3 年度においては，芸術学部で作成した令和 2 年度の改善報告書の内容をどこまで達成しているのか現状を整理した上で，さらに新たな課題及び提案にも目を向け，「アフターコロナ ～IT 化と大学教育～」について話し合い，芸術学部への提案書を作成いたしました。令和 2 年度と同様に，令和 3 年度も学生・教員・職員の三者で協議した上で「改善報告書」を作成いたしましたので，御覧いただきますようお願いいたします。

今後も芸術学部では，教育の質や改善について検討を重ね，より良い教育環境づくりに努めていきます。

(参考)

①「日本大学学生 FD CHAmmit」って何？

<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/fd/fd-chammit/>

②2018 年度は芸術学部で開催しました。

<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/uploads/files/20190319142841.PDF>

以 上

令和3年度 学生FD CHAmiT 学部提案書に基づく改善報告書

【芸術学部】

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和4年3月3日	Zoomを使用して双方向でのオンライン・ミーティングを行い、1時間30分にわたりFD CHAmiTでの改善意見に基づき、提案の背景、問題点、改善案等について協議しました。ミーティングには、CHAmiTに参加した学生2名（デザイン学科2年生、放送学科1年生）、FD委員会委員長、FD委員会副委員長、並びに教務課からFD担当者1名及び当日参加した課員1名の計6名が参加しました。

2 学部提案書の対応について

① 昨年度報告書の状況

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
(1)学生同士で交流できる場を設けてほしい。(対面/オンライン)		○		<p>(ア)対面 教育効果の観点から演習科目や実技科目の一部の科目は、オンラインでの授業実施が難しいことに加え、クラスターが発生してしまった場合は、これらの授業実施を取り止めなければならないため、不必要に対面での交流の場を設け、コロナ禍への感染リスクを高める活動は厳に慎まざるを得ない状況です。本学部の入構管理が他に比べて厳しいのも、そのためです。</p> <p>一方、授業実施期間以外では、コロナ禍の蔓延状況を見ながら、令和4年3月13日～3月20日まで卒業制作展（日藝の卒博）を実施し、事前予約及び9日間の検温記録をもって、学外者の入構も可とするイベントを開催するなど、学生が交流の場として活用できる機会を提供しました。</p> <p>(イ)オンライン 教員向けのオンライン授業の手引きでは、オンライン授業では、「学生の意見交換の機会」を設けるよう、令和2年度から周知しています。今後、改めて周知するようにします。</p>
(2)オンデマンドの授業で配信日時を指定するのをやめてほしい。		○		<p>フルオンデマンドの授業であっても、学生の学修状況や理解度を教員が把握する必要があるため、配信期間を設けることは適当です。あるいは、コロナ禍における個別の特別対応として、対面や双方向型の授業の録画動画などを配信している授業については、ライブで授業を受講している他の受講生との平等性の観点から、合理的な理由がない限り、配信期間を短く設定することが適当だと考えています。</p> <p>一方、全ての受講生がフルオンデマンドで受講している授業について、その配信期間を極端に短く設けることは、フルオンデマンド授業の利点である、復習教材としての活用や学生の利便性を妨げることとなりますので、フルオンデマンド授業の意義を改めて、教員に周知します。</p> <p>また、令和3年12月2日に教員向けに実施したFDセミナーでは、良い取り組みの事例として「オンライン授業におけるICTの実践的活用」と題し、フルオンデマンド授業の実践例を取り上げ、録画動画が受講生たちの復習に積極的に活用されていることを、データをもって説明するなど、教員の理解を深める取り組みを行いました。</p>
(3)ハイブリッド授業（対面の授業を同時にオンラインで配信する）をより多くの科目で展開してほしい。		○		<p>コロナ禍において対面で実施している授業は、対面でないとは十分な教育的効果が得られないと考えている科目です。</p> <p>コロナ禍が収束した後に、ハイブリッドで授業を実施するかどうかは、オンラインやフルオンデマンドで受講する科目数、科目の内容、使用する教材及びグループワークやプレゼンテーションなどの授業実施方法を勧奨し、検討していきたいと思っております。</p>

令和3年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

【芸術学部】

② 新たな課題

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
(1)Google Classroom上に学生が投稿した作品について、他の学生が意見等を送る際、他の学生から見られない形でコメントできる機能がほしい。		○		Google Formを使用すれば、実現可能です。今後、学生向けのマニュアルを作成し、また、教員に対しても授業内での活用例などを提示するなどの検討を進める予定です。
(2)オンデマンド授業で、質問に対する教員からの回答が1週間以上かかる科目がある。	○			シラバスに記載されているオフィスアワーをご活用ください。基本的に授業に関する質疑応答の時間は、授業内、授業の前後の時間、あるいはオフィスアワーの時間になりますので、週1回の科目で、授業時間後に質問したのであれば、次回授業時に回答する形になります。 質問をする際は、当該科目のシラバスやClassroomで示された時間・方法で質問していただかないと、見落とされてしまう場合がありますので、ご注意ください。
(3)授業を受けられない学生が取り残されてしまう。理由：一緒にお年寄りが住んでいる為、都内に行き自分が感染し家族に感染することを恐れている。または家族に止められている。そのような学生が、先生の配慮でzoomは繋いでもらえるが対面の学生優先になるため取り残されてしまう。			○	コロナ禍においても対面で実施している授業については、対面でないと十分な教育効果が得られない科目のため、対面で実施している授業を特別対応としてオンラインで受講する場合は、予めご了承ください。また、オフィスアワーを積極的に活用していただき、質問等があれば、担当教員に問い合わせてください。
(4)事前、事後学習や課題の量に関する情報を、受講前に知れた方がいい。	○			事前、事後学習や課題の量に関する情報については、シラバスや授業初めのオリエンテーションなどで、お伝えしています。より詳しい内容を知りたいという場合は、授業の際、担当教員に質問してください。
(5)一人で課題解決に挑むことが多く、新たな意見の獲得が困難		○		対面で行われる授業やガイダンス、あるいはサークルなどを積極的に活用して、友人のネットワークを広げてください。学生は大学のアカウントで、Zoom, Meet, Chat, メールを利用することができます。また、ソーシャルメディアは当然のように使っていることと思います。これらを活用し、必要に応じて他の学生とコミュニケーションを取ってください。また、教員のオフィスアワーを積極的に活用し、分からないことは質問してください。
(6)ハイブリッドだと学校往復の時間もある中、同じ日にやる別のオンライン授業で当日締切の課題があるため、課題の締切を工夫して欲しい。			○	各授業のシラバスでは成績評価方法を記載しており、当日締切の課題であれば、毎回の授業でリアクションペーパーやミニッツペーパーを求めるなどの記載があるものと思います。これらは、当日の授業の理解度や受講姿勢を確認するために実施しているもので、期末のレポート課題などと求められる分量やレベルも異なります。また、短時間で考えをまとめるスキルを身に付けるためのものです。ご不明な点は、当該授業の担当教員に質問してください。

令和3年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

【芸術学部】

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
(7)オンライン授業だとレポート課題が多いがフィードバックがないので、出題者の意図に沿った回答ができていないのかどうか分からず不安		○		<p>オンライン授業におけるフィードバックの大切さは、教員向けの授業実施の手引き及びFDセミナーでも周知しています。また、令和3年度から各学期の15回目の授業週を、「フィードバック週間」と位置づけ、各授業のフィードバックを行うこととしました。令和3年度の授業評価アンケートの結果では、授業内でフィードバックがあったとする回答が66.8%と、令和2年度の59.4%から7ポイント改善が図られています。今後も、この取り組みを継続する予定です。</p> <p>また、オフィスアワーを活用するなどし、不明な点がある場合は、教員に質問してください。</p>
(8)次回授業の予習課題としてテレビ番組の視聴を求める授業があるが、録画機器持っていない人はリアルタイムで見れないと次の授業についていけなくなってしまう。		○		<p>教員に対しては、できる限りテレビ番組視聴の無料アプリ"TVer"で視聴できる番組等の活用を促したいと思います。一方、本学部の特に映像系の学科は、それらテレビ番組の制作理論や手法などを学修することが必須の分野です。学修においては、当該番組を録画し、繰り返し見ることやスローで再生するなど必要です。テレビの録画機材は、一般家庭で購入できる価格になっており、特にTV録画対応の外付けHDDは数千円で購入することができます。</p>

令和3年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

【芸術学部】

③ 「IT化と大学教育」 へ向けての提案について

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
(1)課題で作った作品を見てコメント、そこから同じ方向性を持つ人とコミュニケーションが取れるようなシステムが必要。全員作品を公開して、作者だけに見えるようなコメントが送れる機能がある場があると良い。		○		②(1)に記載のとおり対応予定です。
(2)オンデマンド授業でも、高校などの放課後に職員室で先生に質問をするような感じで、授業外に短時間（授業外のため、学生も先生も負担にならない程度が望ましい）でリアルタイムで質問できるようなタイミングを設ける。	○			②(2)に記載のとおり対応しています。
(3)事前事後学修について、シラバスに明記するか、もしくは前週の授業で課題の量と想定時間を学生に提示する	○			②(4)に記載のとおり対応しています。
(4)課題について意見交換ができるきっかけを作る場として、ガイダンスなどを対面で行い、連絡先の交換する機会にしてほしい	○			令和3年度及び令和4年度のガイダンスは、基本的に対面で実施しています。
(5)授業外で取り混ぜるレポートにおいて、当日締め切りを原則禁止にするべき。			○	②(6)に記載のとおり、当日の授業の理解度や受講姿勢を確認するために実施しているものですので、「当日締め切りを原則禁止」にすることはできません。
(6)授業や授業の資料となる映像については、視聴しやすい手段を教員側で提示し、映像での提供が難しい授業は、教員の講義を音声で提供するようにしてほしい。		○		②(8)に記載のとおり対応する予定です。

令和3年度 学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく改善報告書

【芸術学部】

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
(7)学生から教員に対する質問の仕方をメールに統一し、教員にチェックを促す。	○			②(2)に記載のとおり対応しています。
(8)課題へのフィードバックについては、教員からだけではなく、友人からもフィードバックが貰える環境を整える。		○		②(1)に記載のとおり対応予定です。

※①～③については、令和4年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。

3 芸術学部から学生へのメッセージ

CHAmmiTに参加した皆さんには、芸術学部の改善に主体的かつ積極的に取り組んでいただき、御礼申し上げます。

大学は、専門的な知識・技能のほか、学生が主体的行動力を身につけるための教育機関です。授業・サークル活動・日芸祭・卒博・各種の制作発表会などは、学生・教員・職員がそれぞれの立場で協力しながら作り上げていく「舞台」です。皆さんには、主体的行動力を身につける場として、大いに活用していただきたいと思います。

全授業科目に対する授業評価アンケートが年2回、日本大学学修満足度向上調査が、毎年1回（1年生・4年生は2回）あります。アンケートや調査への回答は、時間がかかるものですし、面倒だと感じることもあるかもしれませんが、皆さんが、これらのアンケートや調査に回答し、建設的な改善意見を提案していくことは、授業や大学に対して主体的に働きかけていくことに他なりません。芸術学部では、これらの回答をしっかりと確認し、改善の取り組みにつなげています。より魅力ある日芸を一緒に作り、発信していきましょう。